

令和4年度学校評価のまとめ

1 教職員による学校評価（自己評価）

(1) 数値による評価

- ・ 評価項目②, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨については, 高評価(「4」もしくは「3」)の割合が学校全体で95%以上だった。「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援」, 「教育環境の整備や事故等の未然防止」, 「児童生徒の人権に配慮した教育活動」, 「感染症対策や危機管理体制」, 「服務規律の厳正確保」, 「地区内における特別支援教育のセンター的機能」, 「保護者や関係機関との協力・連携」については, 本校の取組が充実していることがうかがえる。
- ・ 評価項目①については, 高等部で12%の職員が「2(やや不十分)」と評価をしている。さらに, 記述意見が学校全体で9件挙げられている。新学習指導要領が施行されているが, その内容を取り込むにあたり, より多くの教師が活用しやすいと感じる教育課程の整備が課題であると考ええる。
- ・ 評価項目③については, 中学部で17%の職員が「2(やや不十分)」と評価をしている。さらに, 記述意見が学校全体で8件挙げられている。各学部を卒業するまでに児童生徒に身に付けさせたい力については, 個別の教育支援計画に整理しているが, 日々の授業で継続的に取り組めていないという課題があると考ええる。
- ・ 評価項目⑩については, 学校全体で17%の職員が「2(やや不十分)もしくは1(不十分)」と評価をしており, 「効率的な業務の推進や適切な勤務時間の管理」は, 依然として本校の大きな課題である。一方で, 昨年度と比較すると, 高評価の割合の数値は74%から82%へと上昇しており, 職員一人一人が, 自分の周囲で少しずつ業務改善が進んでいることを実感できるようになってきたのではないかと考える。

(2) 記述による評価

- ・ 挙げられた意見をおおまかに分類すると, 「業務内容や教育環境の改善」に関する意見が, 学校全体で29件挙げられている。また, 「職員間の情報共有や連携, 研修の充実」に関する意見が, 学校全体で43件挙げられている。これらの中には, 「引継ぎ」や「共有」, 「連携」といったキーワードが多く見られることから, 職員間のコミュニケーションや情報共有をより充実させ, 職員一人一人が, さらに働きやすいと思えるような環境をつくっていく必要がある。

2 学校評価（保護者アンケート）

(1) 数値による評価

- ・ 学校全体では, 項目1「教育方針や教育内容」, 項目2「情報発信」, 項目3「個別の教育支援計画」, 項目6「通知表の工夫」, 項目14「道徳や社会マナー」に関する取組が高く評価されている。
- ・ 項目4「開かれた学校づくり」, 項目7「交流および共同学習の推進」, 項目9「活発なPTA活動」に関する取組は, 「2:やや不十分」, 「1:不十分」の割合が, 学校全体で10~15%程度あるが, 高評価の割合は昨年度より上昇している。今年度は, 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら, 学校行事やPTA活動等がより充実してきたことが評価されているのではないかと考える。

- ・ 項目 10「進路指導の充実」に関する評価については、高評価の割合が高等部では 87% であるのに対して、小学部では 63、中学部では 79 である。このような傾向は、例年見られるため、本校の課題であると考え。小学部では、「0：分からない」の割合が、昨年度同様に 30% 近くあるが、中学部では、「0：分からない」の割合が、昨年度より 8% 減少している。これは、進路指導係を中心に取り組んでいる学習内容の改善や保護者への情報発信が成果として現れてきたのではないかと考える。今後も引き続き、小学部段階から、発達の段階に応じた進路指導について理解を深めてもらうために取り組む必要がある。

(2) 記述による評価

- ・ 運動会や学習発表会、P T A 活動について、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた本校の取組に対する意見が多く寄せられた。今後も引き続き、感染症対策を徹底しながらも開かれた学校づくりを進めるために、学校行事や P T A 等の実施方法をさらに工夫していく必要がある。
- ・ 学級編制、家庭との連携、指導方法等について、改善を求める意見がいくつか挙げられた。保護者との連携を深め、その思いを十分にくみ取りながら個に応じた対応をより充実させる必要がある。また、指導方法については、児童生徒の人権を尊重するという視点から学年・学部間でのチェック体制を強化し、より適切な指導を実践する必要がある。
- ・ グラウンドや駐車場などの設備について、改善を求める意見がいくつか挙げられた。予算面など学校だけの判断では改善が難しい事例もあるが、職員の意識や行動で改善できるものに関しては、早急に対応する必要がある。

3 学校評価（児童生徒アンケート）

児童生徒会役員 9 人を対象に実施した。各項目とも、おおむね高い評価を得ている。今後も、児童生徒一人一人に寄り添った指導を継続していく必要がある。

4 次年度に向けた改善策

(1) 学校評価結果

- ・ 教育課程・時間割係と各教科等部が連携し、知的障害課程における各教科の内容を本校の年間指導計画に具体的に位置づけることで、新学習指導要領に基づいた教育課程の整備を進める。
- ・ 教師と保護者間で進路指導に関する情報を共有したり、ふだんの学習活動が進路指導につながっていることを啓発したりすることで、発達の段階に応じた進路指導についての保護者理解をさらに深める。
- ・ 感染症対策を考慮しながら、教育活動や P T A 活動の充実や積極的な情報発信を図ることで、保護者や地域に開かれた学校づくりを目指す。
- ・ 職員同士が互いを思いやり、サポートし合えるような関係性を築くことで、一人一人が働きやすいと感じる職場環境づくりを目指す。
- ・ 業務改善に対する職員一人一人の取組を広げることで、係・学年・学部といった段階においても業務の簡素化を更に進められるようにする。

(2) 学校経営案

令和 5 年度学校経営方針(案)として掲げられた「個別最適な学び」、「人権・安心・安全」、「連携」、「協働性・業務改善」の下に、学校評価結果に基づいた重点事項を挙げる。